

令和5年度第1回伊佐市総合教育会議 議事概要

開催年月日 令和5年10月25日(金) 15時30分 開会
17時00分 閉会

開催の場所 伊佐市役所 大口庁舎2階大会議室

出席者	市長	橋本 欣也
	教育長	春田 浩志
	教育委員	永野 治
	教育委員	長野 則夫
	教育委員	久保田 悦子
	教育委員	長野 吉泰
	(事務局)	
	企画政策課長	岡 信吾
	企画政策課政策調整係長	下一ノ宮 慎一
	企画政策課政策調整係事務主査	川崎 雅子
	企画政策課政策調整係事務主査	前田 祐太
	(関係者)	
	教育委員会教育総務課長	平崎 祐実
	教育委員会教育総務係長	日高 一寛
	教育委員会社会教育課長	中村 康雄
	教育委員会文化スポーツ課長	浅山 典久
	教育委員会学校給食センター所長	有馬 洋一郎
	教育委員会学校教育課指導係長	川原園 達司
	伊佐市立曾木小学校長	山田 俊也

- 次 第
1. 開会
 2. 協議
 - (1) 第2次伊佐市総合振興計画の概要について
 - (2) コミュニティスクールについて
 - (3) コミュニティスクールの取組状況について
 - (4) 意見交換
 - (5) その他
 3. 閉会

会議要旨

1. 開会

2. 協議

(1) 第2次伊佐市総合振興計画について

(企画政策課政策係長)

第2次伊佐市総合振興計画について、概要説明。

(2) コミュニティスクールについて

(春田教育長)

本市がコミュニティスクール制度をいち早く導入した背景には、人口減少がある。もともと地域で子供を育てていく伝統がある土地柄であり、平成29年3月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正があり、学校運営協議会の設置が市町村教育委員会の努力義務とされことから、まず平成29年度に16校中の5校で、翌年から全ての16校でコミュニティスクールを運営している。7年目となり充実してきているが、市長、教育委員の方々にもご意見を聞く場としたい。

(学校教育課指導係長)

コミュニティスクールは、これまでの学校評議員制度と異なる点としては、学校の教育活動に地域や保護者の意向を反映させることが保障されているという点で、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を意識しながらそれぞれの立場で連携協力する姿が求められている。学校と地域の双方向の関係によるつながりがポイントとなっている。コミュニティスクールは、学校を支える制度ではあるが、一方で、地域の活性化については本市の発展に繋げていこうとするものでもある。

教育委員会がコミュニティスクール制度を進める理由としては、学校及び校長の支援体制を強化し、子供が変われば家庭・地域も変わり活性化することも期待しているため。

(3) コミュニティスクールの取組状況について

(山田曾木小学校長)

職員にお願いしていることが、3Cで、Condition (コンディション)、子供も含めて体調を整える。Communication (コミュニケーション) 関係を整える。Combination (コンビネーション) 指導態勢を整える、子ども達は心構え、気構

え、身構えを整えるということ。それは全部Children（子ども達）のために。

本校は、「よいところをのぼそう」、「やってみよう」、「言ってみよう」、「ふりかえろう」、「次に進もう」の4つを重点としている。

コミュニティスクールは、地域が学校に対して支援活動をするだけではなく、学校も地域に対して協力していく必要があると思っている。

学校運営協議会での考え方は、人的管理、物的管理、運営管理を学校だけではなく協議会と一緒に進めていくということ。まず人的管理については、児童の、家庭や地域での様子と学校での様子を共有する。登下校時のスクールガード、家庭学習、学校生活の見守り。喜んで曾木小に赴任してくれる教員をお願いするという人的管理に努めている。

物的管理として、愛校作業に50~60人の多くの方が参加された。学校が地域と行うものとして、道路の除草作業に参加した。2021年7月10日、大雨で、めぐみの里の高齢者が学校に避難され、体育館では難しい状況だったので教室を避難場所として開放した。

運営管理について、地域が学校と行うものとしてスクールガード。学習指導、読み聞かせには2名が月1回来てくださる。書写も月1回、梅干し作りも3名に協力していただいている。学校が地域と共に行うものとして、運動会、本年度は4年前と同様、ほぼ99%完全実施した。学習発表会では、地域の方々の作品も展示している。

学校、地域の取組では、4月1日、夜桜花見があり、赴任初日の教頭に受付係をお願いし、たくさんの方に名前を知ってもらえた。

次にどろんこ祭り。去年も、今年も実施し全職員12名が参加した。6月23日、ふるさと学寮が4年ぶりに行われ、嬉しいことに4年生以上15名全員参加した。職員も朝夕、見に行ってくれた。ふるさと学寮の3日目（土曜）には地域の方と一緒にグラウンドゴルフをした。4月8日、カヌー体験教室ではカヌー協会に指導してもらった。4月9日、市軽スポーツ大会でスカットボールに校長、教頭も参加した。2021年7月13日、梅のしそ漬。8月19日、緑陰読書を菱刈図書館、学校、児童クラブの連携にて児童会館で行った。

今年の運動会は300名の参加があり、高校生も来てくれ、短距離走では真剣に走ってくれ、素晴らしい様子を見せてくれた。昨年度の9月29日、コミュニティ主催のペットボトルロケット作りで紅葉こども園を訪問し、職員は4名参加した。1月14日、もぐら打ちに夕方5時半から7時半ぐらいまで、職員5名が参加した。学校運営協議会が機能するには職員が地域行事に参加、参画をすること。ふるさと学寮で校長、教頭の家にもらい風呂に来た。

毎年春の一日遠足は水族館、動物園、鹿児島空港に行くが「遠くに行かなくていい、地元に行こうよ。」ということで、来年からは布計小学校、十曾池キャンプ場、さつま町の観音滝公園、湧水町の丸池などに変える予定。十曾池や布計小学校には、子供たちは行ったことがないとのことで、学校が率先してやっていくべき。職員には、「伊佐に赴任したのだから伊佐のラーメンや米など色んなところを楽しんだほうがいい。」という話をしている。

(永野治委員)

伊佐の場合は、先生たちの頑張る姿を見て地域の方々と共に歩んできた事実があると思う。地域の先輩方や現役のPTAの方が頑張るといのは一番だが、なかなか、それが一番のネックであり課題な気がする。先生方が全員参加するのは、遠方からいらっしゃる先生もいるので無理な話だが、先生たちには、地元にいる意識で取り組んでくれという言い方をする。

(橋本市長)

運動会で子供に疲れることをさせないでくださいという保護者がいたという事例があったが、曾木小ではどうか？

(山田曾木小学校長)

運動会は、全面実施にするか午前中だけにするか考えたときに、他校の様子を聞くと、特に高学年の保護者は最後だから全部やってほしいと。ところが、家庭に持ち帰ると弁当を作らないといけないから嫌だという話があるようだ。それなら全員弁当を注文すればいい。今まで勤務した近隣校は、全員弁当だった。

心配したのは熱中症で、スポーツ飲料持参可能にした。それから本部テントに扇風機を置いた。児童テントでは、コミュニティの発電機を借り、扇風機を回した。冷たいおしぼりも準備した。水専用の噴霧器に氷水を入れて私が子供たちにミストをしてあげた。疲れないように、そういう施策をとればいいのではないかと思う。

なお、学校運営協議会は、校長室で開くということを前提にしていない。入学式終了後、ふるさと学寮の反省の時、それから協力してくれた人の慰労会の時、夏祭りの時、運動会の時、そういう時を兼ねて行っている。

(長野吉泰委員)

地区によっては過疎化で子どもが少なくなって、小学校と物理的な距離もだが、心の距離というか、子どももいないし、関係ないな雰囲気もたくさんあると思う。曾木小ではどうか？

(山田曾木小学校長)

無いと思う。なぜかというと、今年そうめん流しをおやじの会が主催してやった。竹を切ってグラインダーで綺麗にして。鹿児島大学附属小学校にお泊りをしたという新聞記事を見たが、曾木小学校は児童クラブで既に夏休みに学校に泊まることをやった。教室に泊め、肝試しもした。協力してくれる保護者は多い。

(春田教育長)

ワーク・ライフ・バランスについて、教員も、市の職員も会社員も一緒だが、働くことと

家庭を両立していくことは、これからの社会で非常に重要なこと。職員に土日に地域行事があるから毎回来るよう業務命令は出来ない。山田校長先生の職員への上手い呼びかけ方や働きかけ方があるのだろうと思う。職員のプライベートな時間も大事にしながらも、教員になった理由というものに立ち返って、休みの日の子ども達の様子を時々でもいいので見届け、そういった姿が保護者や地域の人たちに、やっぱり先生は有難いという風に相互の関係が1歩ずつ近づいていくのかなと思った。

ふるさと学寮を一つの校区とする困難さもあり、来年あたりは、牛尾と平出水と山野で、1日目は牛尾、2日目は山野、3日目は平出水、そういうのをやれたらいいなと牛尾の方が言っていた。そのように色んな知恵を大人が出しながら環境を整えてあげれば、子ども達はどこで生活をしていたとしても同じ環境になる。取り入れていったらどうか。できないってことを言うことは簡単だが、止めるのは簡単であって、止めたら復活しない。そういった工夫を大人がしていく時代になった。

(橋本市長)

熊本の学校でふるさと学寮制度はなかったので、凄く良い事だなと思う。人の飯を食う、人のお世話になるという事で観察力も付くだろうし、鹿児島の人達は凄いなと思っていた。

(春田教育長)

校長先生は、地域で学寮をする県内の学校の事例を聞いたことは？

(山田曾木小校長)

牧園町の万膳小学校が1週間行っていた。

(橋本市長)

私の希望としては全校区やってもらいたい。学ぶことの多さは有る。3校区合同でやっていくとか。今度、大口東と牛尾と山野と平出水のPTAで合同のスポーツ大会をやると聞いた。熱い気持ちになった。子供の教育に地域が関わって、大人が関わるということが本当にいい伝統だし、残していきたいことだと思う。

(永野治委員)

校区は年老いていくし、子ども達は減っていく中で、やっぱり学校が中心となって、コミュニティスクールという形で機能していくことが長続きしていく一つだと思う。

(長野則夫委員)

親父の会もそう、続いているところは続いている。

(橋本市長)

結局続いている所は、みんな楽しそうな顔をしている。義務感でやっていたら苦痛でしかない。やはり楽しんでやることが大事。私は、28年スポーツ少年団の指導をやってきたが、休みがなくて大変でしょう、きついでしょうと言われたが、やっている方は楽しい。全く苦にならない。

(5) その他

(長野則夫委員)

今回、鹿児島国体が行われ、そこでコミュニティスクールのいいところが見えた。湯之尾小学校やコミュニティ協議会の方々がおもてなしということで、ガネとふくれ菓子を合計600食提供され、小学校とコミュニティの強さというか、コミュニティの厨房で奥様方がガネとふくれ菓子を作って、それをコミュニティ協議会の会長が軽トラで運んで、それを今度は湯之尾小学校の保護者、PTA会長を中心に準備して、売り子の小学生が「あったかいガネですよ、ふくれ菓子ですよ」と。あれを見たときに、学校とコミュニティが共同しているなと感じたので、お伝えした。

(橋本市長)

学力も大事だが、そういう笑顔だとか態度だとかが大事なのかなと思う。伊佐にはコミュニティの力を借りながら取り組んでいくという雰囲気が残っていると感じた。

3. 閉会